

## 7月17日 CVV 定例会議事要旨

日時：2024年7月17日(水) 午後5時30分から

場所：(一社) 近畿建設協会会議室

参加者（順不同・敬称略）：21名（会員・会友）

古田・川谷・青木・今岡・大井・南荘・古川・友廣・鈴木巖・鈴木威・夏秋・田中・先本・祝・吉岡・齋木・清水・高田・河野・荒武・黒山

### <定例会資料>

- ① 5月30日定例会議事要旨
- ② 2024年度いきいき活動対象校との事前打ち合わせ議事メモ（鈴木巖）
- ③ 技術継承グループ及び自治体支援グループからの報告（夏秋）
- ④ 市民向け広報・見学会企画グループ打合せ議事要旨（青木）
- ⑤ 阪神淡路大震災30周年への取り組み 打合せメモ（祝）
- ⑥ 阪神・淡路大震災30年、CVV活動の検討（大井）
- ⑦ 建設事業後援会 in 神戸（大井）
- ⑧ 2023年度土木遺産調査報告（今岡ほか）
- ⑨ 選奨土木遺産の活用に関する一考察（南荘）
- ⑩ 選奨土木遺産（2017年選奨）奈良市水道関連施設群の調査（今岡）
- ⑪ 近畿地方整備局スペシャリスト（橋梁部門）とCVVの関わり（先本）

### <主な議事>

代表あいさつに引き続き黒山が資料確認した。また、川谷幹事長が前回定例会の議事要旨（資料①）を確認した。その後の議事は以下のとおり。

#### 1. 今年度の定例会の進め方について（川谷）

今年度は定型的な行事報告の時間を縮小し、調査結果、活動報告に時間を割きたい。本日は奈良市周辺の土木遺産の調査を中心に講演いただく。また、関西土木工学交流会に2編発表いただく（資料⑨、⑩参照）。

#### 2. CVV2024年度いきいき活動について（鈴木巖）

資料②に基づいて、今年度のいきいき活動の現状を紹介した。前畑氏から8月開催予定の橋の模型作りイベントへの協力要請があったが都合がつかずお断りした。

#### 3. 技術継承グループ及び自治体支援グループの活動報告（夏秋）

資料③に基づいて現状を報告した。技術継承グループに関しては、会員全員に記述をお願いしている技術経歴書の取り扱い（公開手法等）について会員から質問があり、資料の作成目的を踏まえ検討している。案として、すべての資料を公表するのではなく、資料「CVVの技術継承・・・参考資料（案）」の3に示した経歴一覧表を作成し、夏秋が必要事項を埋めてみたが、これでは理解が難しいと感じている。自治体支援 Gr.に関しては技術経歴の資料が完成すれば関連自治体に持参したいと考えている。

- ・ メンバーリストと簡単な経歴を記した資料を自治体に持参すれば検討してくれるのではないか。（川谷）
- ・ 技術継承は必要だが、我々の持つ技術は古い。経験に基づく精神論はできるが先端技術には対応できない。（友廣）

- ・ 個人ベースではなく分野別にまとめたほうが良いのでは。この分野には詳しい CVV メンバーが何人在籍とか。(南荘)
  - ・ 提出いただいた資料は活用したい。(夏秋)
  - ・ グループ内で再度議論いただけないか。(川谷・南荘)  
→了解した。(夏秋)
4. 市民向け広報・見学会企画グループの活動報告 (南荘・青木)  
資料④に基づいて現状報告した。
5. 阪神淡路大震災 30 周年への CVV の取り組みについて
- ・ 阪神淡路大震災 30 周年への CVV の取り組みについて、土木学会関西支部等の動きも含め前回定例会以降の現状を報告した。(川谷)
  - ・ 土木学会関西支部では他団体の取り組みを調査している段階。支部は他の団体が実施することに協力はするが実施主体にはならない予定。(青木)
  - ・ 大井、吉岡、祝で協議した内容(資料⑤)を踏まえ、CVV としての活動私案を⑥にまとめた。(大井)
  - ・ CVV には当時経験した技術者が多く、現在の学生に経験談を伝えることは意義深いと考えている。大学、高専等に問い合わせし、興味を示した学校があれば対応してはどうかと考えている。(川谷)
  - ・ 技術的なこと、技術者としての心構え、両面で説明できるのでは。(高田)
  - ・ 阪神淡路大震災を語るにはハード、ソフト両面で多方面な観点での対応が必要だと思う。それらの話題提供できるメンバーも必要。(吉岡)
  - ・ メンバーには胸に秘められているものが多いと思う。個人が講演するのではなくメンバー数名で互いに経験談を語り合うだけでも聴衆(若手技術者、学生)の役に立つのではないか。(今岡)
  - ・ メンバーの震災関連経験談のインタビュー記事をまとめたら面白いと思う。(南荘)
  - ・ 当時の映像資料の活用も有用では。(荒武)
  - ・ 検討グループ(阪神淡路大震災での経験を後世に伝える)を作ることが必要では。(祝)
  - ・ 技術継承グループで検討いただけないか。(川谷・南荘)  
→了解した。(夏秋)
6. 2023 年度土木遺産調査報告(奈良市周辺地区)(南荘、清水、今岡)
- ・ 表記について、資料⑧(パソコン画面で)を基に調査結果を報告した。
7. 近畿地方整備局の担当者に橋梁部門スペシャリストへの協力が可能と伝えていることが報告された。(先本、資料⑩参照)
8. その他
- ・ 次回は 9 月 17 日(火)に開催する。なお、会場の都合で変更もありうる。

文責：黒山